



号者局
任務
行
第5号

昭和60年7月1日
所出張
武川
木第
和川
昭鈴
TEL. 700-9120

あれから八年 用賀駅

用賀駅の一日は午前5時4分より、5時16分下りに始まり、24時18分より、24時36分下りで終ります。

平日の一日の乗降客約3万5千人。定期の乗客約2万人です。この乗降客の数は、二軒茶屋、駅次大学、桜新町、用賀、池尻大橋の順になっています。(渋谷二王川園駅は路線統計上除かれていたそうです。駅の出入口は、南口、東口、北口の三ヶ所あります。毎日の乗降客は、各自、決まった出入口がある様です。遠来の人は改札口横の案内図の前で、思索している人も見かけます。

尚、高架下に2ヶ台も収容できる自転車置き場があり、遠い人達には便利と思います。時々、区の管理の人や、町会の手伝いもありますが、マナーも良い様に見受けました。駅近くの商店



鈴木 武一

参勤交代オサムライ。偉い方は東海道。裏の板道、大山道。用賀の町の東西を真一文字に通ります。

黒い法衣の坊さんも、八木節踊りのネエちゃんも、角兵衛獅子も往きました。

笛の音、美しい夕まぐれ、お寺の鐘もほど遠く、俳聖芭蕉はワラジがけ、元禄時代に一寸居て、弟子をこ

つたり泊ったり、その人鈴木天由と、今でも遺る真福



の方の語では、乗降客のお買物は、家路を急ぐためか『いまいち...』との返事でした。

又、町の古老の方に旧玉電の頃の駅の様子をうかがいました。『そいねー階段が無くてよかったよ』同感...。(大坪・折原)

寺。カネ塚の名も消え失せて、橋場三軒丁口店も、馬と一箱の夕チ場茶屋、牛めし大盛8銭も、昭和の初めでござらば。

新玉線が走り出す。黙って立ってのお巡りさん。公衆電話も並んでる。美術館

やら馬車公園。緑地公園下車駅で、さて此の次はどうなるか、ひとりでたすむ田中橋。下を流れる谷沢川。諸行無常の音がする。

私のふるさと

上用賀、並子、勝次

私の家族が用賀に引越して来たのは昭和二年。父が海軍を退役したのを機に渋谷より移り住んだ訳だが、玉川電車に乗って用賀駅まで、駅から木の生い茂る細い坂道を家へという道のりは子供心に遠い田舎へ来たように思えた。

家の近くに農家が数軒、朝、鶏の声を眼をさます日

々、家が高台にあった為、冬など丹沢の山や富士山が良く見えただものだ。陸軍衛生材料廠が丁度その頃移転して来て、用賀から世田谷

へ向う道(ボロ市通り)は年毎に人通りが多くなっていた。第二次大戦時には、この周辺にも重宝工場ができた家は強制疎開により壊されてしまった。家族は疎城へ、私は軍隊へと戦

時中私はこの用賀を離れる時期があるが、戦後再び当地に定り、歳月を重ねるうち、私も70才、用賀は本当に私の故郷になってしまった様だ。



玉電の思い出

用賀から瀬田へ

玉川台 坂戸 直輝

大正12年9月、関東大震災の直後、今のところへ移り住んで60年余り、すっかり根付いてしまった私は当時京西小学校の一年生。家のすぐ前を走る玉電を朝、夕、見てのとりこになった。砂はこりの道路のまん中から両側寄りに併用軌道があり、垣根すれすれの複線の線路には二本のポールをびんと張り上げたオレンジ色の重箱電車とボギー車がいっつも見られた。その頃玉電は30号までできていて、そのピカピカの新車に父にのせてもらった思い出は今も忘れられない。用賀の坂上から用賀神社のわきの専用軌道を、かなりのスピードで下りきったところに用賀停留場があり、折返し、ポイントもあって遠足ときなど渋谷方面へその折返し電車に乗るのが楽しかった。用賀を出た電車はポイントをわたり左に大きくカーブして道路に出る。田中橋のあたりは大雨のあと出水でよく不通になった。このあたりから上りとなりモーターのうなりがきこえた。お地蔵様のところをすぎると旧京西小学校が左に見える。道路はほとんど現在のまま、電車が手動のブレーキがかかるころ、そこは瀬田の停留場。今の環八の手前だった。昭和44年には沿線の人々に思い出を残してバスに変わった。(高橋)

郷土紹介 上用賀



上用賀といふ町名は玉川台と同じ様に、新住居表示制度実施に基づいて付けられたもので、古くは上用賀字上原・本村・天神山・原・横溝・中丸・上(かみ)等と言われた一帯、昭和7年世田谷区が成立してから玉川上用賀町三丁目と呼ばれた地域を中心に誕生した町です。地形上は東側が台地面に向って次第に低くなっており、上用賀村の中でも山林畑が多い場所であった為昭和初年には陸軍衛生材料廠(今の国立衛生試験所)、昭和10年代には馬事公苑と大型施設が建設されました。

た。又、現在、道路が著盤の目の様になっていますが、これも昭和10年前後の耕地整理当時、人家が少なく工事がやり易かった為です。
上用賀には谷沢川の水源が三つありました。それは①上用賀一丁目天神児童遊園近く、②西丁目公務員住宅南側、③六丁目環状八号線さわです。いづれも湧水を源として、それぞれの小川は田んぼに水を送りながら大山街道田中橋下では立派な川に成長、下流で等々力溪谷を形成し多摩川に流入して行きました。
往時、農業用水であった谷沢川も、その後の流域住宅地化が進む中で排水河川として衣替え、新しい役目になっていきます。(飯田)

SPORT スポーツ

七夕送参、ハッピーアゲ

7月7日の御歳送は、七夕送参とも言われ、私達は輝くような明るい送参と、衰微の防止などを呼びかけてあります。
玉川第五ブロック、明の送参推進委員一同、夏を彩る風物詩二題、川崎市制記念多摩川花火大会は7月20日(土)、ラスリバー、多摩川灯ろう流し大会は7月26日(金)に開催されます。ご家族どうぞ。

上用賀のロード

新設される区立美術館への散策道が一部完成しました。西上用賀通りも新しい姿に変わっていきます。(池田)

あとかき

本町がどうか、町かどへ、ひろばはさまざまな話題を皆々まのお茶の間に。
本第5号は、変わりゆく町「上用賀」を、足で迎えてみました。何気なく見過ごす用賀駅構内の案内図、改めて見てみたら、何かが不足。本「上用賀」に水源が、(郷土紹介欄をどうぞ)
本緑のマッフィいかがですか、これを片手に、わが町を歩いてみませんか、何か宝物が見つかるかも。
本町を育て、美しくするのは、あなたです。
編集者一同、皆さまからの声を、心待ちに...。(柳田)



みどりと親しむ

区の花



けやき

